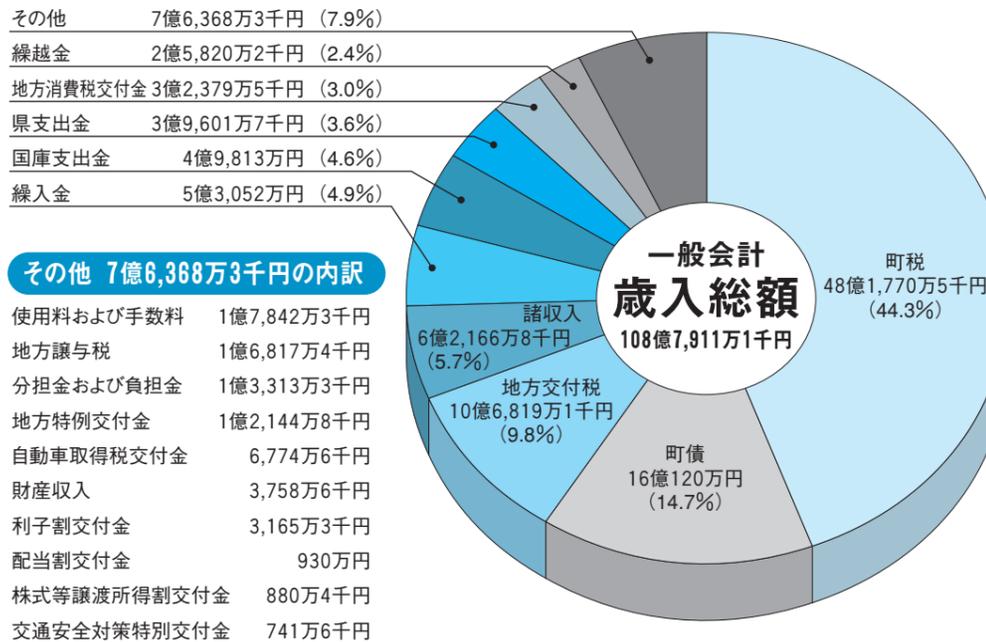


決算報告

問い合わせ 総務グループ ☎0794(35)0357

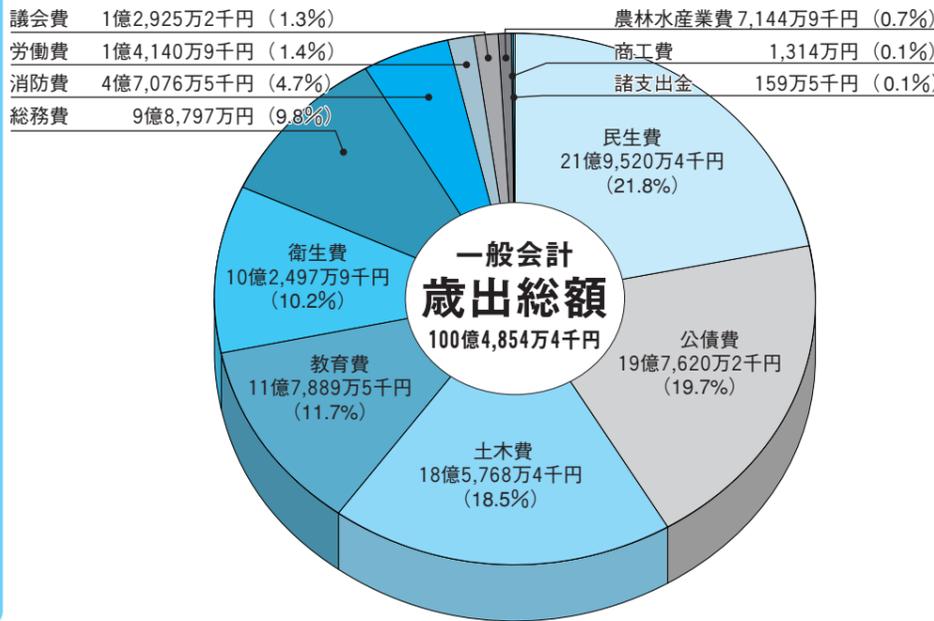
歳入総額 108億7,911万1千円



その他 7億6,368万3千円の内訳

使用料および手数料	1億7,842万3千円
地方譲与税	1億6,817万4千円
分担金および負担金	1億3,313万3千円
地方特例交付金	1億2,144万8千円
自動車取得税交付金	6,774万6千円
財産収入	3,758万6千円
利子割交付金	3,165万3千円
配当割交付金	930万円
株式等譲渡所得割交付金	880万4千円
交通安全対策特別交付金	741万6千円

歳出総額 100億4,854万4千円



用語解説

<歳入>
 町税…所得にかかる町民税や土地・建物に係る固定資産税など 町債…事業を行うために借入れたお金 地方交付税…町の財政需要に応じて国から交付されるお金 国庫支出金、県支出金…事業を行うための国や県からの負担金や補助金 繰入金…各種基金(預金)から一般会計へ繰り入れたお金

<歳出>
 土木費…道路や公園の整備など 民生費…高齢者や障害者、児童のための福祉など 教育費…学校や公民館の整備など 公債費…町債などの借入金の返済 総務費…財産管理や企画・税務事務など 衛生費…ごみ・し尿処理や予防接種など 消防費…消火・水防活動など 労働費…労働者への福利厚生など 議会費…議会の運営など 農林水産業費…農業・水産業の振興など 商工費…産業の振興や観光など

特別会計区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額
国民健康保険事業	28億2,935万3千円	27億3,193万6千円	9,741万7千円
財産区	10億2,891万1千円	3,990万8千円	9億8,900万3千円
老人保健医療事業	20億3,164万6千円	20億3,120万円	44万6千円
下水道事業	14億2,916万8千円	14億2,167万5千円	749万3千円
介護保険事業	12億3,664万4千円	12億3,694万4千円	△30万円
(小計)	85億5,572万2千円	74億6,166万3千円	10億9,405万9千円

※介護保険事業特別会計の歳入歳出不足額は、翌年度歳入繰上充用金で補てん。

特別会計の状況
 5つの特別会計の各決算額は次のとおりです。

中遺跡公園新設など都市計画事業に約15億501万円、大中二見線などの道路の新設改良事業に約2億4192万円を使用しました。「教育費」は、11億7889万5千円、全体の11.7%を占めています。小・中学校関係に約3億9678万円、幼稚園関係に約1億7802万円、公民館・コミセン・図書館などの運営や人権教育の充実など社会教育関係に約3億2578万円、そしてスポーツ施設関係に8396万円を使用しました。

平成16年度決算がまとまり、9月の町議会定例会で認定されました。

皆さんが納めた税金や国・県からの補助金は私たちの生活をより良くするためにいろいろな形で使われています。今回は、平成16年度決算についてお知らせします。

9月に決算の認定

会計は、4月から翌年3月までの「年度」で区切っています。「決算」は、その年度の収入と支出を明らかにするもので、今回は去る9月の町議会定例会で「認定」され決定しました。

会計の仕組み

播磨町の会計は、大きく分けて私たちの生活に最もかわりの深い「一般会計」と特定の収入を基に特定の事業を行う「特別会計」とに分けられます。

一般会計では、皆さんが納めた税金や窓口での収入、国や県からの補助金が主な収入で、道路や施設の整備、教育や福祉事業などの住民サービスに使うお金は、この会計から支払います。

特別会計は、その目的の事業にのみお金が使われ、播磨町では、国民健康保険、財産区、老人保健医療、下水道、介護保険の5つの特別会計があります。

一般会計の決算

平成16年度の一般会計の決算額は、歳入(収入)が108億7911万1千円、歳出(支出)が100億4854万4千円、差し引き8億3056万7千円となり、これから来年度(平成17年度)へ持ち越す3億7838万3千円

歳入

町税は、約1億2千万円の減額に、前年度に比べて1億7911万1千円、前年度に比べて2億9591万3千円、2.8%の増額となりました。

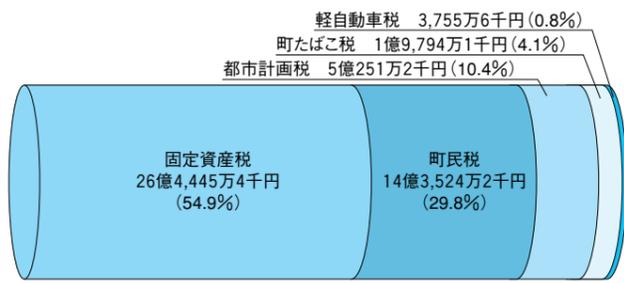
このうち、皆さんから納めていただいた町税(町民税、固定資産税・軽自動車税・町たばこ税・都市計画税)は、景気低迷等の影響を受け、48億1770万5千円、前年度に対して2.4%約1億2千万円の減収となっており、5年連続の減少です。

歳出

歳出は、総額100億4854万4千円、前年度に比べて1億2354万8千円、1.2%の増

町債(町の借金)においては、16年度の特異要因として、平成7・8年度に国の政策として実施された減税を補つために借り入れた減税補てん債を借り換え(一度歳出で全額返済し、同額を新たな条件で借り入れる措置)のために、借換債6億4720万円が収入として含まれています。そのため前年度に対して24.3%約3億1千万円の増加となっておりますが、この要因を除くと26.0%約3億3千万円の減少となっております。

町税 48億1,770万5千円の内訳



加となりました。

最も支出の多かった「民生費」は21億9520万4千円で全体の21.8%を占め、健康いきいきセンターなどの運営や障害者、高齢者などの社会福祉事業に14億2973万円、児童手当の支給や保育園の運営など児童福祉事業に7億6446万円を使用しました。

次に「公債費」で、19億7620万2千円で全体の19.7%を占め、各種施設などの建設・改修のために借り入れたお金の返済に使いました。なお、歳入の町債での説明のとおり16年度の特異要因として、減税補てん債の借り換えに伴う全額返済額として6億4720万円が含まれています。

「土木費」は、18億5768万4千円で全体の18.5%を占め、JR土山駅前広場の整備、大

平成16年度のバランスシート(貸借対照表)

(千万円単位で端数整理)

借方	貸方
有形固定資産 学校、道路、橋、庁舎など 512億3千万円 (うち土地 277億2千万円)	借入金(町債) 93億7千万円
投資など 基金など(固定的なもの) 出資金など 51億8千万円	退職給与引当金 14億2千万円 翌年度償還予定額 8億7千万円 負債計 116億6千万円
流動資産 現金預金、基金(現金化が容易なもの) 未収金(税など) 57億7千万円	正味資産 国、県の補助金、資産形成に使った一般財源など 505億2千万円
計 621億8千万円	計 621億8千万円

借入金: 今までに学校、道路などを建設するための財源として町が銀行や国などに借金しているお金の残高です。

退職給与引当金: 町の職員が年度末に全員退職した場合の退職金です。実際、今払うものではありませんが、将来発生するものとして負債に計上しています。

今まで学校、道路などを建設するために使ったお金のうち、国や県から補助金としてもらったものや税金などの総額です。

平成16年度住民一人あたりのバランスシート

人口 34,294人 (H17.4.1現在)

借方	貸方
有形固定資産 149.4万円 (うち土地 80.8万円)	負債 34.0万円
投資など 15.1万円	正味資産 147.3万円
流動資産 16.8万円	計 181.3万円
計 181.3万円	計 181.3万円